

令和8年度 新潟市立高志中等教育学校 経営基本方針

高志中等教育学校長

0 はじめに

令和7年度より施行された「新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～」において、これからの新潟市の教育が目指す人間像として『しなやかに 世界と未来を 創る人』が掲げられました。グローバル化・デジタル化がより一層進展し、変化の激しい予測困難な時代の中においても、社会課題に正対し自ら考え主体的に行動するたくましさを身につけることが求められています。

当校は、新潟市立で唯一の中等教育学校であり、新潟、日本、世界の未来を支えるリーダーとなる人材の輩出が期待されています。これまでも「夢を見つけ、夢を志として大きく育て、夢をかなえる学校です。」と紹介してきました。6カ年の一貫した教育課程を通して、豊かな人間性と確かな学力を養い、すべての生徒の進路希望が実現できる教育を行うことが本校の最大の特徴です。

新潟市教育委員会が策定したスクール・ミッションは以下の通りです。

志の涵養を中核に据えた6年間の一貫した教育により、社会に変革を起こせる生徒を育成する学校

これまでも新潟市を起点として、日本・世界を見渡して社会に変革を起こせる生徒の育成が求められてきた本校において、新たな「新潟市教育振興基本計画」を踏まえ、これまで本校に課せられたミッションを再度見直し、グローバル人材の育成を更に加速できるよう、より一層の本校教育の充実を目指して参ります。

1 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー (目指す生徒像、卒業認定に値する生徒)

- 高い知性と豊かな人間性をもち、よりよい社会、世界の実現のために歩み続ける生徒
- 自らの可能性を信じ、明確な目的意識をもって、様々な人々と協働しながら、困難を乗り越える逞しさをもつ生徒

(2) カリキュラム・ポリシー (高志中等教育学校の教育課程編制方針)

- 社会や地域とのかかわりを取り入れた探究的な学びを中核に据え、教育課程を編成する。
- 仲間と協働しながら問題解決にあたる体験的活動を発達段階に応じて、各教科、領域などに位置付ける。
- 各教科・領域において、当校で獲得させたい資質・能力に関するルーブリックを活用し、生徒の学びの履歴として蓄積できるようにする。
- 生徒の自治的・主体的な活動を推進し、よりよい学校生活の実現のための方策を実践の中で具体的に指導する。

(3) アドミッション・ポリシー (高志中等教育学校が求める人材)

- 新たに学ぶための読解力や情報処理のための計算力などの基礎学力、発想力、論理的思考力、コミュニケーション能力の素地がある生徒
- 高い志、目的意識を持ち、新たな仲間と共に学び続け、ひたむきに自己の伸長を目指す生徒
- 広く社会に目を向け、解決すべき課題に正対し、よりよい社会づくりのために貢献しているという意欲に溢れる生徒

2 教育目標

「志の涵養」 ※ 涵養・・・自然に水がしみこむように、少しずつ養い育てること。

知性と人間性にあふれる高い志をもった次代のリーダーとなる生徒を、6年間という時間をかけ一貫した教育によりていねいに育てる。

3 教育理念

「自律と互敬」

自律＝自分で考え、自分の意志で行動すること。

互敬＝互いのよさや持ち味を認め合い、尊重し合うこと。

4 教育内容

(1) 教育方針

- ①「知性」を高めるために、6年間の連続性を生かし、質と量の調和のとれた学習指導を行う。
- ②「豊かな人間性」をはぐくむために、人とのかかわりを重視した多様な活動を計画的に組織する。
- ③「高い志」をはぐくむために、体験を中心とした進路指導を6年間継続的に行う。

(2) 具体的方策

①「知性」について

将来に生きる学力、全国に通ずる学力を養い、進路希望の実現を図るため、学習内容を効果的に組み合わせるなど、6年間の連続性を生かしたカリキュラムを編成し個に応じた丁寧な指導を行う。

【1年生～3年生】

- (ア)「基礎・基本」を身につける学習と、「知識・技能を活用する力」や「考える力」を高める学習を、バランスよく展開する。
- (イ)総合的な学習の時間や教科学習の時間において、適切なグループ学習を核にして話し合いの方法や調査の方法など「追究の技術」を育成する。
- (ウ)社会で変革を起こすために必要な資質・能力（コンピテンシー）を明らかにし、持続的に取り組める活動を取り入れる。

【4年生～6年生】

- (ア)全国模試などを計画的に活用して、進路実現を目指し、高校生として必要な全国に通ずる確かな学力の定着を図る。
- (イ)総合的な探究の時間や各教科・領域の学びの中で、個別の課題を焦点化し、大学での専門的な探究につながる「追究の力」を育成する。
- (ウ)これまでに積み重ねてきた学習の成果を適切に外部に発信し、得られた知見を元にさらに自身の見識を深められるようにする

②「豊かな人間性」について

- (ア)人権感覚及び国際感覚を養うために、すべての教育活動において学年や校内の仲間、そして、校外の人たちとかかわる場を設定し、多様な価値観と向き合えるようにする。
- (イ)身近な道徳的課題について対話や協議を行い、想像力を働かせる経験を通して、道徳的判断力・実践力や互いに認め合う寛容性を養う。
- (ウ)各種職場訪問・職業体験活動や社会貢献活動など、産官学と連携した体験活動を通して、今日的な諸課題を見だし、社会課題の解決に向けて多様な他者と議論する機会を設定する。
- (エ)一人一人の個性を互いに認め合い、直面する諸課題に対して協力して解決しようとする支持的風土の醸成を土台とした集団作りに取り組む。

③「高い志」について

- (ア)総合的な学習・探究の時間を、次の3種類で構成し、体験活動と将来や進路を考えるための学習を行う。
 - (i)6年間を見通した系統的な全体計画に基づいた学年別のテーマに沿って、調べたり、課題を解決したりする学習
 - (ii)自分の進路を自分で決めることができるようにするために、育むべき資質・能力を明らかにした上で、本物体験を中心とした将来を考える学習
 - (iii)自己の学びの成果を積極的に発信し、得られた知見を元にして修正を重ね、より確かな力を育むことができる学習
- (イ)活動・行いや自身の学びを省みる機会を設け、失敗してもくじけずに改善の方途を考えさせることを通して、粘り強くやりきる力、困難にも負けないしなやかな強さ（レジリエンス）を高める。